三陸新報

(7)　2019年(令和元年)9月5日　木曜日

交通弱者の支えに

カーシェアリング実証実験　林際地区でスタート

南三陸町

南三陸町入谷林際地区で、住民同士が車を共同利用するカーシェアリング事業の実証運行が始まった。地域には買い出しなどで市街地まで移動するのが困難な高齢者も多く、足の確保が課題となっている。実証運行を通じ、住民が支え合い、通院や買い物など、交通弱者からのニーズに応え、本格運行を目指した仕組みづくりを模索する。

本格運行へ仕組み模索

実証運行は、林際地区の住民有志による準備委員会が、日本カーシェアリング協会や町と連携して実施。トヨタモビリティ基金の助成を受け、協会から2年間無償で借り受ける5人乗り乗用車1台を、地区内の校舎の宿さんさん館に置いて利用する。

車は住民からの予約に応じて、買い物や通院、用足しなどに利用が可能。免許や自家用車を持たない住民のために、別の住民が担うボランティアドライバーが運転して自宅まで迎えに行く。免許を持つ人が車を借りることもできる。

経費は、利用者が分担して負担する仕組みで、実証期間は1人当たり5キロの利用につき500円を積み立て、ガソリン代などを賄う。正式な金額は今後検討する。

9月中は試行的に毎週水曜日を買い物ツアーの日に設定。志津川市街地のウジエスーパーなどを往復500円で送迎する。

山あいに位置する林際地区では、町が経費を負担している南三陸乗合バスの停留所まで遠く、利用しにくいなど、高齢化とともに、住民の移動手段の確保が課題になっている。こうした中、石巻市で行われている同様のカーシェアリング事業を参考に、住民有志による委員会を立ち上げて準備を進めてきた。

4日に行われた買い物ツアーには、6人の住民が参加。臨時で協会から乗用車をもう1台借りて、2台で順番に自宅まで迎えに行き、林際地区から10キロほど離れたウジエスーパーまで移動。買い物を済ませた利用者を、再び自宅まで送り届けた。

利用した入谷山の神平の山内太一さん(88)は「以前はバス停までバイクで移動したが、腰を悪くしてできなくなった。自宅まで迎えに来てもらえてとても助かる。ぜひ続けてほしい」と喜んだ。

実証運行は10月まで行い、効果を見ながら正式に実施組織を立ち上げ、本格的な運行を目指す。

準備委員会の菅原辰雄委員長(72)は「いずれ自分も移動手段に困るかもしれない。住民がお互いに助け合い、足を確保していく仕組みを実証を通して広めていきたい」と話している。

自宅に迎えに来た車に乗り込む住民